

地域防災力向上に向けた取り組み－U R 米本団地の例－

米本団地自治会／千葉県八千代市 協力：防災都市計画研究所・八千代市・U R 都市機構

1. はじめに

近年、災害が多く、将来大規模地震災害も予測される我が国では、災害から身を守るためには、自治体等による「公助」と連携しながら、自分たちの身は自分たちで助ける「自助」や、近所の人たちと互いに助け合う「共助」による取り組みを進めることが大切だと言われています。

わたくしども米本団地自治会では、平成31年3月から、内閣府の防災アドバイザー制度を利用させていただき、防災都市計画研究所の指導のもと、八千代市・UR都市機構等の協力を得て、地区防災計画の策定に向けて活動を開始しました。



2. 地区防災計画に向けた主な取り組み

① 団地の概要

米本団地は、総戸数3,020戸の大規模団地です。団地の敷地は外周を歩くと30分近くかかるほど広々としており、敷地内には、大小さまざまな広場、プレイロット、コンビニエンスストア、郵便局、公民館、地域包括支援センターのほか複数の教育施設があります。

団地の敷地中央には、広く開放的な歩行者専用道路があり、住民の暮らしやすさに配慮された街づくりがされています。団地の敷地西側には東洋バス「米本団地バス停」があり、東葉高速鉄道「八千代中央駅」や京成本線「勝田台駅」にアクセスできます。



② 自治会の取り組みの紹介

団地自治会では、1人暮らしの高齢者などの孤立や孤独死を防ぐため、見守りネットワークの構築に向けて、住民の実情を把握するためアンケート調査を実施中です。調査員2人1組で団地の各世帯を訪れ、氏名・年齢・家族構成・近所付き合いなどに答えてもらい記入します。その際、見守ってほしいか、逆に見守り活動に参加してもらえないか等もヒアリングを行い、「見守りネットワーク」の構築を目指しています。



③ ワークショップ (第1回)

「災害時の危険・資源から米本団地の防災課題を考える。～団地危険マップづくり～」

災害時の危険箇所・団地周辺における資源など米本団地における防災課題をみんなで考えました。



④ ワークショップ (第3回)

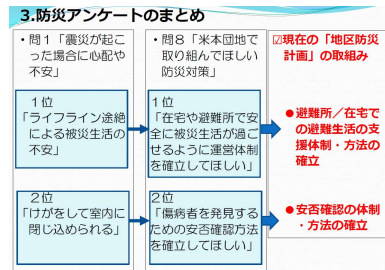
「米本団地の防災対策を考える。～災害対応シナリオの骨子の作成～」

冒頭、内閣府のご担当者から挨拶を頂戴しました。防災都市計画研究所の吉川先生の講話のあと、3班に分かれて、「安否確認」「避難所開設」をテーマに火災発生時・緊急対応・要支援者への対応・避難所運営・在宅避難等について議論を行いました。



⑤ 防災アンケート

団地居住者の自助の備えの状況把握や、防災上の不安・要望などの意向把握を行い、「地区防災計画」づくり及び今後の防災活動に役立てるため、全戸を対象にアンケート調査を行いました。アンケートでは、自助の備えや要配慮者への対応、ライフラインの不安など多くの意見をいただきました。



⑥ 安否確認訓練

令和1年11月30日の午前中に団地内の2棟を対象に決めて、団地中庭・階段・集会所で実施しました。当日は、約80人のみなさんが「災害対応シナリオ」に沿って安否確認、応急手当、反省会等を行いました。安否確認の方法は、ベランダに市のゴミ袋をまきつけることで無事を知らせました。



⑦ 幹事会 (第3回)

「米本団地の地区防災計画たたき台の検討」

これまで実施してきたワークショップや幹事会の内容、みんなの災害対応シナリオ、団地住民への防災アンケートの結果、秋に実施した安否確認訓練の反省、その後の組織体制の議論などを踏まえて、まずは、幹事会のメンバーで地区防災計画のたたき台を検討しました。



3. 今後の予定

2020年2月 地区防災計画(素案)に関する団地住民へのアンケートの実施

4月 ワークショップ(第5回)で、地区防災計画(素案)検討と「防災ニュース」の発行

5月 八千代市との協議開始

7月 八千代市防災会議へ地区防災計画(素案)提案